



瓢湖の蓮（新潟県）

えにし
縁

— 縁尋機妙 多逢聖因 —

（縁を活かして良い縁へと発展し良い結果につなげてゆく様）

化か
成せい

Vol. 59

去る 4 月 12 日、内外より 300 名を超える方々を招いて「徳真会グループ創業 45 周年感謝の集い」を開催させて頂きました。

1981 年 4 月 16 日、新潟県旧新津市で徳真会グループの始まりである松村歯科を開業したのは私が 28 歳 11 ヶ月で、翌月誕生日を迎え 29 歳になった頃でした。

以来 44 年の歳月が流れ、今年 45 回目の創業記念日を迎え、私も 73 歳の年齢になりました。

44 年を振り返ってみて、今日まで御来院頂いた患者様をはじめ多くの方々との出会いの中で、私も組織も育てて頂いた歳月であったとつくづく実感しております。

20 歳代から 30 歳代は「昭和」の時代で、

体力、気力にあふれ、自分の限界に挑戦した「若さと学び」の時代

そして、40 歳代から 60 歳代半ば迄の「平成」の時代は、

経験を通して学んだ「挑戦と修得」の時代

そして、60 歳代半ばから 70 歳代前半の今日までの「令和」の時代は、

次世代に向けての「蓄積と継承」の時代

という位置づけで考えると、孔子の

15 にして学に志し(志学) / 30 にして志を立て(立志)

40 にして惑わず(不惑) / 50 にして天命を知り(知命)

60 にして耳従い(耳順) / 70 にして己の欲するままに行いてその矩を踰えず(従心)

とまではゆかなくても、自分の年齢と経験に沿って私の考え方も行動も変わってゆき、それにつれ組織も変化してきた歳月だった様に感じています。

そして、そうした私自身の変化は、多くの方々との出会いの中で育てて頂いたと思っております。

「行年五十にして四十九年の非を知り、六十にして六十化す」(五十歳になってみて、それまで生きてきた四十九年間の生活の間違いに気づき、六十歳になっても自分で反省し、勉強して進歩して変わった)という『淮南子』の言葉が有りますが、すでに六十化すの年齢も過ぎ 70 代になった今、今日までお世話になった方々との出会いに感謝し、より一層社会に貢献できる生き方(化成)を目指して人生の終わりに向かわなければならないと考えております。

創業 50 周年まであと 5 年。

「人財の蓄積と組織の継承」を私の人生の最後の課題として、徳真会という組織を社会に高い貢献の出来る組織に育てて次世代に継げるべく、今後共努力してゆくつもりでおります。

徳真会グループ

代表 松村 博史